

研修会報告

令和元年 6 月 3 日

文責：播磨 晋太郎

研修会名：生物化学分析部門研修会

テーマ：「日当直時の生化学検査」

開催日時：令和元年 6 月 1 日(土) 14:00 ~ 16:40

会場：東北医科薬科大学病院 大会議室

<プログラム>

【講演 1】

「日当直検査時の注意点～検査報告する前に～」

講師：仙台オープン病院 診療支援部 臨床検査室

鎌田 将矢 技師

【講演 2】

「平成 30 年度宮臨技精度管理調査報告（生物化学分析部門）」

講師：塩釜医師会 臨床検査センター

赤間 慎也 技師

【特別講演】

「救急外来患者の病態把握」

講師：東北医科薬科大学 医学部 救急・災害医療学教室 助教

東北医科薬科大学病院 救急センター 大村 拓 先生

日臨技生涯教育研修制度：専門 20 点

参加者：会員 54 名、賛助会員 2 名、講師 3 名、実務委員 4 名、計 63 名

【内容】

自動分析装置から報告される検査結果は必ずしも患者さんの病態を反映するわけではありません。そのため、「日当直時の生化学検査」をテーマに、検査過誤についての知識を持ち、日頃から患者病態を踏まえて検査データを見ることを目的に研修会を企画しました。講演 1 では、仙台オープン病院の鎌田技師に検査結果を報告する前に考えるべき手順を実際の症例を交えて、講演して頂きました。特に、検体の採取に問題がある場合の病棟とのやりとり（採取方法の確認）については、非常に参考になりました。講演 2 では、塩釜医師会 臨床検査センターの赤間技師より平成 30 年度の宮臨技精度管理調査の報告と解説がありました。宮臨技の精度管理調査は日臨技の精度管理調査とほぼ同一の収束を示し、標準化がほぼ達成できている状況がわかりました。トレーサビリティ体系図についても詳細な説明があり、試薬とキャリブレーターを正しい組み合わせで使用する理由がわかったと思います。特別講演として、東北医科薬科大学病院 救急センター 大村 拓先生に救急外来患者の病

態把握についてご講演して頂きました。講演の中では、救急外来患者さんの診療の流れを説明して頂くとともに血液ガスのデータの見方についても詳細な説明があり、非常に勉強になる内容でした。特に、患者さんの病態を考えて、検査値を見なければならない。再検査に入る前に検査値が病態を反映しているのかの確認をして欲しいというお言葉があり、検査結果の報告について今一度、考え直さなければならないと感じました。

今回の研修会についてもテキストの準備の都合上、出来る限り事前参加の連絡をして頂くように案内に掲載しておりました。事前参加の連絡をして頂いた方々に感謝を申し上げますとともに、アンケート結果を基に会員に有用な研修会を企画していきたいと思っております。